

令和4年度 学校評価（自己評価）の集計結果から

北海道函館養護学校

- ① 教職員による自己評価は、校長、教頭、事務長を除く本校の正規職員 67 名に配付し、10 月 14 日提出締切で行った。回収率は 100%である。
- ② 教職員による自己評価の評価項目は、学校運営計画の「学校経営の重点」に示された本校における「教育活動の方針」と「経営活動の方針」に基づき、「経営参加と協働」に関する項目 3、「研修・育成」に関する項目 1、「連携・支援」に関する項目 2、「教育環境の整備」に関する項目 4、「児童生徒の将来を見据えた教育活動の展開」に関する項目 2、「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実」に関する項目 1、「新学習指導要領への移行をふまえた教育課程の確実な実施と評価の推進」に関する項目 3、「一人一人のキャリア発達を踏まえた進路指導の推進」に関する項目 1、「児童生徒の発達段階・年齢段階に即した生徒指導の推進」に関する項目 1、「学校生活を支える体育・健康に関する指導の推進」に関する項目 1、「ICT教育の推進」に関する項目 1 の合計 11 項目で構成されている。
- ③ 結果の集計方法は、評価尺度を 4 段階に設定し、数値化して集計した。
- ④ 評価基準は、下の表のとおりである。

評価	評価基準		結果分析
4	とてもできている	8割以上取組ができた	とてもよく取組ができている
3	ほぼできている	6割以上取組ができた	ほぼ取組ができている
2	あまりできていない	5割以上取組ができた	工夫・改善が望まれる
1	できていない	5割未満しかできていない	改善が必要である
	評価なし		

- ⑤ 教職員による学校評価（自己評価）は、各項目の平均値を昨年度の平均値と比較して、各項目の今年度の取組について評価する方法とした。また、平均値は、小数第 3 位を四捨五入し、小数 2 位まで算出した。表の網掛け部分が今年度の各項目の平均で、その右横が昨年度の平均である。
- ⑥ 増減は今年度の平均値と昨年度の平均値の差である。0.1 以上の増減について増えたものには↑を、減ったものには↓をつけ、これらの項目については変化があったと判断した。なお、0～0.09 の増減については、昨年度並みと評価する。
0.1 以上の増減は 7 項目あり、最大は 0.16 だった。0～0.09 の増減は 13 項目である。
- ⑦ すべての項目の平均値が 3.22 から 3.55 の中にあり、このことは本校の職員がすべての項目について「ほぼ取組ができている（6 割以上取組ができた）」と考えていると判断できる。昨年度同様 4、3 の評価が大半を占めている。

⑧ 評価の高い項目（3.5 以上）として、項目 19（教務・舎務及び専門職の連携した健康管理、医療的ケアの対応）（3.55）があげられる。

⑨ 評価の低い項目（3.29 以下）として、項目 14（カリキュラムマネジメントをツールとした教育課程の充実）（3.22）、項目 16（地域資源を活用した交流や学習活動）（3.25）項目 10（教務・舎務・事務の円滑な校務連携）（3.28）があげられる。

【考察】

今回の自己評価では、昨年よりは全体的に下がっているが、3.22～3.55 の範囲内にあり、ほぼできているという結果になった。評価ポイントが下がった理由として、「3」の評価が増えていると考えられる。

評価については、評価が高かった項目 19 児童生徒の健康管理・医ケア（3.55）は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症予防の継続した取組が定着しており、健康管理の意識が高まっていると考えられる。また低評価の項目では、昨年より 0.14 下がっている円滑な校務運営では、会議の精選や分掌再編等いろいろな対応を行っているものの、業務量が減らない、業務の偏り等、働き方改革の課題解決に結びついていないのが現状であると考えられる。

増減については、0.1 以上増えたのは、2 項目であった。教職員の専門職の職責（0.11↑）、教育活動の効果的な情報発信の工夫（0.12↑）で、情報発信の工夫については、I C T機器の活用頻度が増えてきたことによると考えられる。0.1 以上減ったのは、5 項目であった。特に危機管理と安全管理（0.16↓）は、評価のポイントは高いが（3.48）昨年より「3」の評価が多かったことが影響しています。

今回もコロナ感染症の対応の中で、ある程度制限された中での評価なので、数値自体も昨年とそれほど変化がないことが伺われる。